

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社 東京酸器	代表者	神尾 英樹	法人・事業所の特徴	・1人1人の利用者の能力を見極め、その方に合わせた適切で丁寧な介護を行う事により、住み慣れた自宅や地域で長く住み続けられる様に支援している。
事業所名	ディアフレンドならしの	管理者	石田 貴己子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	1人	人	2人	1人	人	3人	人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	外部評価の外部研修が今年度は1度もなかったのので、内部研修を実施する。	実施できていない。	自己評価と外部評価をまとめた提出内容について、行政からのコメントがあった方良い。	評価方法の内部研修を実施する。連携・協働については管理者とケアマネを中心に協力して行う。
B. 事業所のしつらえ・環境	事務所不在の事があるので、事務所不在をなくすよう努力する。	施設内に管理者が居るようにはしているが、曜日によって事務所が不在になる時がある。	雰囲気が明るくなった。	事務所が不在にならないようにシフト上で調整する。
C. 事業所と地域のかかわり	外部から講師を招いた研修やボランティア来所の際、地域にお住まいの皆様に案内を出し参加を働きかけ、実績を集計する。	ご案内できる回数は減ってしまったが、適宜ご案内はできている。	互いの行事に参加するなど交流は持っているが、行政がどこまで求めているかわからない。	年間の計画を立てて案内を出すようにする。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	「地域に出向いて～支える取組み」とは大変難しいので、小規模連絡会の他事業所や行政に具体的な取組みを聞き協同する。	訪問時に近隣との関係を傾聴し、地区の民生委員の方にも担当者会議に出席してもらった。	特になし	小規模連絡会の結果を報告してもらう。引続き近所の方や民生委員の方と連携をする。
E. 運営推進会議を活かした取組み	前回の改善計画と一緒に、運営推進会議にスタッフを参加させる。運営推進会議の議事録に全職員が目を通すようにする。	できていない。	特になし	議事録に目を通す事を徹底する。
F. 事業所の防災・災害対策	ホームページに災害時の収容人数や施設の広さをアップする。	受入の体制を具象化できず、アップできていない。	近隣に福祉避難所が無いので、施設にお世話になるかもしれない。	地域包括や町内会と話す場を持ち、利用者様の安全を担保した上で可能な対応を具象化する。

